

平成 19 年 度
名古屋市立大学大学院
医学研究科博士課程
学 生 募 集 要 項
(社 会 人 入 学 を 含 む)

入学者選抜は、年 2 回実施する。この募集要項は 2 回目用である。

1 募集人員(1回目と2回目を合わせて)

生体機能・構造医学専攻	15名	生体防御・総合医学専攻	18名
生体情報・機能制御医学専攻	15名	予防・社会医学専攻	4名

※ 本学大学院医学研究科では、社会人(研究所・病院・企業・官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者)が最新の医学・医療の知識を学び、より高度な研究の能力と技術を身につけて、社会に貢献することを期待して、昼夜開講制により、授業を夜間や特定の時間又は時期におこなうカリキュラムを実施しています。

(注1) 志願者は出願に先立ち、指導を希望する教員に修学方法等について相談すること。

(注2) 研究テーマによっては、医師免許を必要とする科目もあるので、事前に指導を希望する教員に相談しておくこと。

2 出願資格

- (1) 医学、歯学又は獣医学(修業年限6年)の課程を修了し、大学を卒業した者及び平成19年3月までに卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程(医学、歯学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者又は平成19年3月までに修了見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(医学、歯学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者又は平成19年3月までに修了見込みの者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
 - ア 防衛庁設置法(昭和29年法律第164号)による防衛医科大学校を卒業した者及び平成19年3月までに卒業見込みの者
 - イ 修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者で、医学研究科において、大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
 - ウ 大学(医学、歯学又は獣医学を履修する課程を除く。)を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、医学研究科において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- (5) 大学(医学、歯学又は獣医学を履修する課程に限る。)に4年以上在学し、又は外国において学校教育における16年の課程(医学、歯学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了し、医学研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者
- (6) 医学研究科において、個別の入学資格審査により、(1)に定める者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものの

出願受付場所・入学等に関する照会先

〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

名古屋市立大学学生部学生課 大学院入試担当

電話 052-853-8021

3 出願期間

平成18年12月 5日(火)～平成18年12月12日(火)

[必着] 郵送に限る。窓口受付は行わない。

本学所定の封筒に出願書類等を入れ、書留速達で郵送すること。
 期限までに到着しなかった場合は受理しない。(期間内消印有効ではないので注意すること。)

出願書類を受理したときは、受験票、試験場案内、入学検定料領収書を後日送付する。
 1月16日(火)を過ぎても届かない場合は、[大学院入試担当]に照会すること。

外国の高等教育機関で発行された卒業証明書・成績証明書のうち、再発行ができないものについては内容確認の後、写しをとり返却する。返却を希望する場合は、返却用の封筒(返信先を明記し、書留郵便料金に相当する切手を貼付したもの。)を同封すること。

4 出願書類等

書 類 等	摘 要
① 入 学 願 書 写 真 票 受 験 票 履 歴 書 (入学願書裏面)	[本学所定用紙使用] <ul style="list-style-type: none"> ・写真は、正面、上半身、無帽、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影したものを貼付すること。 ・受信場所は、確実に連絡のとれるところを記入すること。 ・学歴は、大学入学から記入すること。 ・職歴があれば記入すること。 ・出願資格(2)、(3)により出願する者、(4)ウ及び(5)により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了した者は、初等教育(小学校入学)から高等教育(大学相当)まで、修了した学校教育をすべて記入すること。 ・出願資格(6)により出願する者は、中学卒業以後から記入すること。
② 成 績 証 明 書	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍または出身大学が作成したもの。但し、本学医学部卒業(見込み)者は、提出しなくてよい。 ・出願資格(2)、(3)により出願する者、(4)ウ及び(5)により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了した者は、外国において修了した高等教育機関(大学相当)の成績証明書を提出すること。コピーは不可。日本語訳も任意の様式で作成し、必ず添付すること。証明書に、和訳を直接書き込んではいけない。
③ 卒 業 証 明 書 (卒業見込証明書)	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍又は出身大学が作成したもの。 ・出願資格(2)、(3)により出願する者、(4)ウ及び(5)により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了した者は、外国において修了した高等教育機関(大学相当)の卒業証明書を提出すること。コピーは不可。日本語訳も任意の様式で作成し、必ず添付すること。証明書に、和訳を直接書き込んではいけない。
④ 健 康 診 断 書	[本学所定用紙使用] 出願前3か月以内に医師が作成したもの。ただし、本学に在学中の者で、平成18年度定期健康診断を受診した者は、学生課保健室(山の畑学生会館)で発行の証明で可。
⑤ 受 験 許 可 書	[本学所定用紙使用] 現に在職中の者は、所属長の受験許可を要する。但し、本学医学研究科・附属病院在職者は、提出しなくてよい。
⑥ 登 録 原 票 記 載 事 項 証 明 書	在留外国人の場合は提出すること。市区町村の長が発行したもの。

⑦	入学検定料 (30,000円)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学検定料は、振込依頼書(本学所定のもの)を使用し、必要事項を記入のうえ、30,000円を添えて銀行などで振り込んでください。(郵便局では取り扱いはしません。また、ATM等は使わず必ず窓口で振り込んでください。) ・振込手数料は志願者本人の負担となります。 ・銀行などから受け取った「検定料納付証明書(B票)」を他の出願書類と一緒に提出してください。 (「振込金(兼手数料)受領書(A票)」は入学志願者が保管するものですから注意してください。)
⑧	返信用封筒	[本学所定封筒使用] 返信先を明記し、350円分の切手を貼付すること。 受験票、入学検定料領収書を送付するときに使用する。
⑨	あて名用シール	[本学所定用紙使用] 合否を通知するときに使用する。

- (注1) 出願資格(4)のイにより出願する者
→ 大学院の成績証明書及び修了証明書を提出すること。
- (注2) 出願資格(4)のウにより出願する者
→ 出願資格審査願、研究に従事した証明書、研究業績目録を提出すること。
- (注3) 出願資格(5)の「大学(医学、歯学又は獣医学を履修する課程に限る。)に4年以上在学した者」により出願する者
→ 出願資格審査願、大学の履修規程、授業シラバスを提出すること。
- (注4) 出願資格(6)により出願する者
→ 出願資格審査願、中学以後の学校の卒業がある場合はその証明書(高校、短大、各種学校等)研究業績目録を提出すること。

5 入学者選抜期日及び方法等

試験期日	試験時間	試験科目	試験会場
平成19年 1月26日(金)	13:00 ~ 15:00	医学・生物学一般(筆答)	医学部研究棟 講義室A
	15:30 ~ 17:00	外国語(英語-筆答) 辞書の持込みを認める。(電子辞書は不可)	医学部研究棟 講義室A
	17:30 ~	専門科目(口答) 志望専門科目(研究内容一覧参照)	志望専門科目 教官室

受験者は、12時45分までに試験会場(医学部研究棟11階講義室A)に集合すること。

6 合格発表

平成19年 2月19日(月) 14時

医学部研究棟1階掲示板において合格者を発表するとともに、本人あて合否を通知する。

7 入学手続

(1) 手続期日

3月中旬を予定。具体的な日時は、合格通知に合わせて通知する。

(2) 手続方法

合格通知に合わせて詳細を通知する。

(3) 入学手続時に必要な経費

ア 入学料	名古屋市住民等	232,000円
	その他の者	332,000円
イ 学生教育研究災害傷害保険料		3,900円（現行の額）

(注1) 入学金は入学手続時に納入すること。既納の納付金は返還しない。

(注2) 名古屋市住民等とは、①入学者 又は ②配偶者若しくは1親等の親族が入学の日において同日の前から引き続き1年以上の期間名古屋市の区域内に住所を有していることを住民票により証明できる者を指す。

8 授業料

年額 535,800円 (1・2期分 各267,900円)

(注1) 授業料は、入学後、年2回(1期・2期)に分けて納めてください。

(注2) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

9 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度がある。
希望者については本学において、学業成績及び研究能力等を審査のうえ推薦手続をとる。

10 注意事項

- (1) 出願書類等が不備の場合は受理しない。
- (2) 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがある。
- (3) 出願書類及び既納の入学検定料は返還しない。
- (4) 受信場所を変更した場合は、直ちに〔大学院入試担当〕に連絡すること。

11 大学院設置基準第14条による教育方法の特例

本学大学院医学研究科では、平成16年度より昼夜開講制を導入し、授業及び研究指導を夜間や特定の時間又は時期に受けることができます。

12 連携大学院

連携大学院とは、学外における高度な研究水準をもつ国公立や民間等の研究所の施設・設備や人的資源を活用して大学院教育を行う方法であり、本学大学院医学研究科では、国立がんセンター及び国立感染症研究所と連携の協定を締結している。

専門科目別研究内容一覧

平成18年10月1日付

【生体機能・構造医学専攻】

講座名	専門分野名	研究内容
	担当教員名	
機能形態医学	制御形態学 曾爾 彊教授	細胞間の制御機構の形態学的表現、下垂体前葉の細胞学、内分泌細胞の超微形態学、膵・肝の発生と分化に関する超微形態学
	分子形態学 島田昌一教授	感覚器に特異的に発現する遺伝子の機能解析:味覚受容体及び味覚受容機構の研究、聴覚に関与する機械受容チャネルの研究、酸感受性イオンチャネルの研究
病態病理学	実験病態病理学 白井智之教授	化学発がんの分子生物学的機構解明に関する研究と発がん関連新規遺伝子の単離、発がん抑制およびその機構に関する研究、前立腺癌発症の実験的・臨床病理学的解析、環境発がん物質の同定に関する研究、トランスジェニック動物の作成と発がんモデルの開発並びにヒト疾患モデルとしての実験動物学
	臨床病態病理学 栄本忠昭教授	人体病理学・診断病理学一般、胸腺の病理、呼吸器病理学、軟部腫瘍の病理、悪性リンパ腫の病理、皮膚病理、神経病理、口腔病理、免疫組織化学的および分子病理学的手法による病態解析
	比較腫瘍ゲノム医学 中釜 斉客員教授 (連携大学院)	発がんの動物モデル(大腸がん、膀胱がん)を用いたがんの初期発生から多段階的進展過程におけるゲノム変化の解明、比較腫瘍ゲノム的なアプローチによるヒト発がんの初期発生に重要なゲノム変化と原因遺伝子の同定、炎症に伴う発がんの分子機構、翻訳制御異常の発がんにおける意義に関する研究
病態外科学	臨床病態外科学 真辺忠夫教授	消化器(胃・大腸・肝・胆・膵)がんの浸潤・転移の分子機構と手術術式の開発、遺伝子治療、がんの免疫・化学療法、臓器障害におけるサイトカインとフリーラジカル、炎症性疾患の分子機構、小児外科、小児外科的疾患の長期成績改善を目的とした術式の開発、胆道閉鎖症の成因
	腫瘍・免疫外科学 藤井義敬教授	胸腺・胸腺腫と自己免疫疾患、T細胞の分化・選択とアポトーシス、消化器がん・肺がんの遺伝子異常とオーダーメイド医療への応用、がんの発生進展におけるシグナル伝達・アポトーシスの関与、肺障害回避のための遺伝子導入、腸管虚血・再灌流障害とエネルギー代謝・サイトカイン、小児外科領域の悪性腫瘍と遺伝子異常、腫瘍の自然退縮の分子機構、血管新生抑制によるがんの制御、乳がんにおけるホルモン依存性の分子機構解析
	腎・泌尿器科学 郡 健二郎教授	尿路結石の分子機構の解明、内分泌外科、内視鏡外科、前立腺がんの病態と骨転移機構、がん選択的温熱療法、男子不妊症の病態究明と補助生殖技術、小児泌尿器科学、宇宙医学(特に尿路結石と生殖)、泌尿器科手術術式の開発、泌尿器分子生物学、遺伝子治療の基礎的研究(特に尿路結石、男性不妊、膀胱がん)
	腫瘍・内分泌学 未定	乳がんにおけるホルモン依存性の分子機構解析、乳がん甲状腺がんにおける分子生物学的病態解析と分子標的治療、内分泌臓器(甲状腺、上皮小体、副腎)疾患における病態解析と外科治療
	心臓血管外科学 三島 晃教授	複雑心奇形の病態解析と手術術式の開発、心奇形に伴う肺高血圧の病態解析と治療法の開発および臨床応用、心虚血および再灌流障害の基礎的研究に基づく心筋代謝と心機能の解明、心筋梗塞および心筋症における骨髄間質細胞移植による再生医療の研究
感覚器	視覚科学 小椋祐一郎教授	糖尿病網膜症の病態診断と治療、加齢黄斑変性の病態解明と治療、網膜微循環、網膜硝子体ドラッグデリバリー、網膜硝子体マイクロサージェリー

形成医学	耳鼻神経感覚医学 村上信五教授	特発性顔面神経麻痺(ベル麻痺)の病因、病態、治療に関する基礎的・臨床的研究、嗅覚・味覚障害の病態と治療、末梢神経の再生、ウイルス・細菌混合感染による中耳炎発症のメカニズムと予防、アレルギー性鼻炎に対する免疫学的アプローチ
	加齢・環境皮膚科学 森田明理教授	難治性皮膚疾患に対する選択的波長を用いた光線療法の開発、樹状細胞療法によるアレルギー疾患、自己免疫疾患、悪性腫瘍の治療、皮膚外用による高分子導入方法の開発、環境因子(タバコと紫外線)による皮膚老化の機序解析と新規治療法の開発、皮膚免疫制御による末梢性トレンスの誘導

【生体情報・機能制御医学専攻】

講座名	専門分野名	研究内容
	担当教員名	
生物機能制御医学	細胞機能制御学 鈴木 光教授 大羽利治助教授	平滑筋の自律神経支配に関する電気生理学的研究、血管平滑筋-内皮細胞機能関連、細胞膜イオンチャネルの機能、平滑筋の自発活動発生機構、細胞内小胞体に存在するCa遊離チャネルのゲート開閉機構の研究、活性酸素と骨格筋疲労との関連に関する研究
	脳神経生理学 未 定	再生・再建医学、パーキンソン病・ハンチントン病・脳虚血モデル動物への神経移植による機能の再建、ES細胞・神経幹細胞から神経細胞への分化制御
	細胞分子薬理学 伊藤猛雄教授	血管平滑筋の興奮収縮連関機構に関する細胞分子薬理学、各種循環器疾患における血管平滑筋の病態分子薬理学、平滑筋におけるカルシウム動態とその病態生理、活性酸素種と循環器疾患に関する分子薬理学
	神経病態学 小鹿幸生教授	脳血管障害、神経難病疾患の臨床的病態研究、神経変性疾患のモデル動物作成法の開発、神経難病の遺伝子治療法の開発、記憶と想起のメカニズムの解明、アルツハイマー病と血管性痴呆における分子生物学的発症機序の解明と治療法の開発
	筋・骨格系医学 大塚隆信教授	慢性関節リウマチの病態に関する分子生物学的ならびに分子遺伝学的研究、微小関節鏡の開発、関節鏡視下手術、整形外科領域の画像診断、人工関節の開発と臨床応用、骨・軟部肉腫に対する温熱療法的基础と臨床、変形性股関節症の病態解明とバイオメカニクス、脊椎疾患の診断と治療
社会復帰医学	精神・認知・行動医学 古川壽亮教授	気分障害と不安障害の認知行動療法・精神病理学、サイコオンコロジー、リエゾン精神医療、エビデンス精神医療、児童精神医学、神経心理学、老年精神医学、てんかん・脳波学、比較文化精神医学、健康心理学
	精神腫瘍学 内富庸介客員教授 (連携大学院)	がんの精神医学、行動科学、精神疫学、心理社会学、神経科学、トラウマ学、緩和医学、倫理学、死生学、コミュニケーション技能訓練法の開発、遺族ケアの開発、医療コーディネーション法の開発、地域福祉ケアシステムの開発
	神経機能回復学 山田和雄教授	虚血性脳血管障害の外科、脳損傷修復の分子機構、クモ膜下出血、水頭症、頭蓋内圧亢進の病態に関する分子生物学的研究、頭蓋底外科、定位脳手術、脳血管内手術の新技术開発、パーキンソン病に対する外科療法の開発、びまん性脳損傷の病態解析と治療法の開発、幹細胞移植による神経機能回復法の開発、手術支援画像技術の開発、新しい機能的脳外科手術の開発導入
	臓器機能回復・移植医学 未 定	臓器(肝・腎)機能不全の成因解明と治療、先天性奇形モデルの作成と胎児手術治療、小児癌の遺伝子治療、各臓器移植(肝・肺・小腸・膵・腎)の術式、人工臓器・臓器保護・保存法の開発、異種移植、移植臓器の免疫反応と臓器障害機序、拒絶反応誘因の分子生物学的解析と治療法の開発、拒絶反応の免疫病理学的研究、臓器再灌流障害の機序

生殖・ 遺伝医学	生殖・発生医学	遺伝学、着床前診断、出生前診断胎児治療、妊娠中毒症の病態生理、周産期医学、生殖免疫、不育症の治療、分子内分泌学、生殖補助技術、内視鏡下手術、更年期代謝
	杉浦真弓教授	
	先天異常・新生児・小児医学	先天代謝異常症のDNA診断法や治療法の開発、神経疾患の遺伝的アプローチ、新生児中枢神経障害の成因と対策、一酸化窒素の臨床応用に関する手技の実際、乳幼児突然死症候群(SIDS)の発生機序に関する研究の進め方、新生児用人工呼吸器の開発手法、小児の発達評価と障害の早期発見法
	戸荻 創教授	

【生体防御・総合医学専攻】

講座名	専門分野名	研究内容
	担当教員名	
生体機能分子生物学	代謝細胞生化学	細胞内ステロール代謝平衡、コレステロールの細胞間搬送機構、動脈硬化性血管病変の発症と退縮、高コレステロール血症治療、中枢神経系におけるステロール代謝、アストログリア細胞の分化機構とその病態生理的意義、真核細胞における細胞周期制御の解析、細胞増殖加齢機構の分子生物学的解析、アポトーシス制御と細胞ガン化、細胞のストレス応答
	横山信治教授	
	中西 真教授	
	分子神経生物学	神経機能発現におけるニューロン・アストロサイト相関、アストロサイト機能分子の発現機構、アストロサイト由来神経栄養因子による神経再生の分子機構に関する研究および中枢神経疾患治療薬の脳内移送法の開発
	浅井清文教授	
細胞分子生物学	遺伝子発現調節機構を主な研究対象としたがん、白血病・自己免疫・リウマチ性疾患、エイズなど難治性疾患の病態解明と治療法の開発。具体的には、(1)相互作用蛋白の網羅的解明による転写因子(NF- κ Bなど)の分子機構の追究 (2) Bioinformaticsの手法をとり入れた分子間相互作用の解明と薬剤設計	
岡本 尚教授		
分子毒性学	遺伝子操作発がん高感受性動物による環境物質の発がん性の短期検出法及び遺伝子・タンパク質発現プロファイリング解析による化学物質の発がん性予測法等の開発。コンディショナル発現がん遺伝子トランスジェニック動物を用いた化学発がん機序とがんの細胞発生の解析。ナノマテリアルの毒性評価法の開発	
津田洋幸教授		
感染生体防御学	感染防御・制御学	A群レンサ球菌などの病原細菌の感染症発症のメカニズム。細菌毒素蛋白質の機能・発現機構の解析、組換えコレラ毒素Bサブユニットをアジュバントとした粘膜ワクチンの開発と応用
	長谷川忠男教授	
	宿主・寄生体関係学	寄生虫感染宿主のTh1/Th2応答の病因的意義、蠕虫寄生宿主の生体防御機能の改変、寄生虫ワクチン開発の基礎的研究、ヒト寄生虫症の分子疫学、腸管寄生蠕虫に対する粘膜免疫、血液寄生原虫の寄生適応の分子生物学、難治性原虫感染症に対する新規薬剤開発
	未定	
	感染微生物学	ウイルス感染の分子疫学、ウイルス感染成立の分子的基盤の解析、ウイルス病原性の解析、ウイルス蛋白質の機能解析
中島捷久教授		
生体防御学	生体の恒常性を攪乱させる要因によって惹起される過度の生体防御反応発現の分子機構の解明とそれを理論的基盤とした新たな治療戦略の開発:敗血症、生活習慣病、及び老化促進などの病態形成における生体侵襲反応の役割の解明とそれらを改善する新奇な薬剤及びサプリメントの開発;生体防御機構の統合的解明、補体系による異物識別機序に対する分子論的アプローチ;感染症および悪性腫瘍に対する免疫学的治療法および予防効果の検証、特にHIV感染症における免疫学的異常の網羅的アプローチと制圧に向けた応用研究	
岡嶋研二教授 岡田則子助教授		
生体総合医療学	臨床機能内科学	消化器がんの早期診断と非観血的治療、消化管粘膜障害の発生・修復機序、慢性膵炎・胆石の成因と治療、肝炎ウイルスの発がん機序、糖尿病におけるインスリン抵抗性の成因と治療、糖尿病・内分泌治療と増殖因子、胃電図と消化管機能との連関解析、遺伝子工学を用いた脂質代謝異常症の病態解明
	城 卓志教授	

